



日本国際飢餓対策機構 (Japan International Food for the Hungry: 略して JIFH) は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体 (NGO) です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人材育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合 (Food for the Hungry International Federation) の一員として、20ヶ国 60の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、現地パートナーと協力しあって、「こころからだの飢餓」に応える働きをしています。



一般財団法人

日本国際飢餓対策機構

# 飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる



コンゴ民主共和国 Son of victory 学校の子もたち。校長先生が、セミナーに参加 (2頁参照)

●東日本大震災被災者支援と募金を継続しています!

飢餓のない世界を実現するための第一歩 現在...  
**ハンガーゼロ・サポーターになろう!** 2/8/8/8口

## ◆ 9月1日は防災の日 備蓄食「パンの缶詰」を特別価格で

毎年9月1日は「防災の日」です。突然の災害に対して備えは万全ですか? 長期保存ができる「パンの缶詰」は、勤務先、学校、家庭で備えるのにピッタリなおいしい備蓄食として大好評です。そこで防災の日に合わせてレーズン、ストロベリー、オレンジ各3セット(計9缶)合計4,380円(送料込み)のところを1,080円もお得な**特別価格3,300円送料無料でお届けします。**(賞味期限:2015年8月までとなります)ぜひ、皆様のところでも備蓄を始めましょう。お求めは株式会社キングダムビジネスまで。FAX:06-6755-4888



web: <https://www.kbwin-win.org/>  
【事務所移転】〒540-0026 大阪市中央区内本町1-4-12 NPOビル6F (営業は月~金の午前9時から午後5時。土・日は休み)

## ◆ 書き損じはがき、書籍、DVD で私から始める国際協力

かもメールなど暑中見舞いの書き損じハガキやポストに未投函(消印のないもの)のものがあれば、ぜひ大阪事務所にお送りください。記念切手など未使用切手も大歓迎です。ハガキは古いものでも受付ます。(私製は不可) また、読み終わった書籍やマンガ、ゲームソフト、DVDは、愛知事務所で、換金して支援のために使わせていただきます。

本 de リンク集計(今年1~6月) 87,936円  
★本: 1627冊 ★CD: 618枚 ★DVD: 13枚  
★ゲームソフト: 34枚  
皆さまのご協力を感謝いたします。

## 今すぐ▶▶▶ 各種支援のお申し込みができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類を送らせていただきます。**お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。**

- ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。毎月 ( ) 口 (1口 1,000円)
- チャイルド・サポーター(世界里親会) になりたいので説明書(申込書)を送ってください。
- 海外スタッフ・サポーターとして協力します。毎月 ( ) 口 (1口 1,000円)
- JIFH(日本国際飢餓対策機構) サポーターとして協力します。毎月 ( ) 口 (1口 500円)
- 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ 氏名: \_\_\_\_\_ 男・女

〒 \_\_\_\_\_

フリガナ 住所: \_\_\_\_\_

.....

(電話) \_\_\_\_\_

▼申込日: \_\_\_\_\_ 年 月 日 ▼NL 号 \_\_\_\_\_

**FAX・072-920-2155**



## 能楽堂でソルナム親善大使が東日本支援演奏会

日本の能楽堂を会場として、昨年大好評をいただきました当機構のソルナム親善大使(フルート奏者)による「東日本大震災チャリティコンサート」が今年も9月28日(土)に山本能楽堂(大阪市中央区徳井町)で開催されます。今回は昼1時と夜6時の2回公演になります。



リナやカヤグムなどの演奏者も出演します。全席自由2,800円、ペアチケット5,000円。問合せは、主催 MNJ 企画 ☎ 06(6949)3980 安東まで。入場は就学児以上。

## 「今、起きていること」

先日、米国で発行されたChristianity Today誌(2013年7・8月号)に、ポスト3・11の日本についての特集が組まれていました。さまざまなインタビューを集めての記事でしたが、その中で特に印象的であったのが、聖学院大学の藤原淳賀教授による次のような論説でした。

「...震災前の日本の教会は、...“きよさ”を保つために社会との関わりをあまり持たない傾向にあった。しかしこの大震災後、教会は人々の助けとなるという動機の純粋さを保ちながら、救援活動に力強く携わるようになってきた。そのような働きを通して今日、日本のキリスト教会は、特に被災地において、未だかつてなかったような信頼を得てきている。」

このことは、私の個人的な体験からも裏付けられます。つい先日、福島県の三春町を訪れたときのことです。ある子ども集会で小さなお子さんを連れてこられた二人の婦人と会いました。一人の女性は、孫を連れていました。実は、その子の両親と弟はあの震災で一瞬のうちに津波にさらわれてしまい、彼女は一人残された孫を引き取って仮設住宅で暮らしているのです。もう一人は富岡町に住んでいた方ですが、原発事故のゆえに避難されて、仮設住宅に住

油山シャロームチャペル 牧師 横田法路  
(日本国際飢餓対策機構・理事)

まわれ、最近ようやくアパートに引っ越された方でした。その方々がこのように言いました。「これまでいろいろの方に助けていただきましたが、いい方だなと思った方は、ほとんど教会関係の方でした。どうしてそのように良くしてくださるのですか?」私にとってこの嬉しい言葉は、確かに教会が人々のあらゆる必要に応えようと具体的に働きかけた故だと感じます。

もちろん、すべての教会、すべての善意の人々が被災地に直接行って被災した人々のお役に立てるわけではないでしょう。だからこそ、日本国際飢餓対策機構(JIFH)は、そのような方々の手足として、震災直後から被災地に入り、その地の人々に愛をもって仕えてまいりました。東北事務所も開設し、今もそうした方々との関わりを持ち続けております。どうぞ引き続きJIFHを通して、被災地の方々に関わり続けてください。また世界にも同じように支援を必要としている人たちが大勢います。あなたも、愛を届ける働きのパートナーになりませんか?

「あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい」(マタイ5章16節)

■ 発行者 岩橋竜介

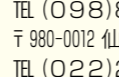
■ 発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス <http://www.jifh.org/>  
eメールアドレス [general@jifh.org](mailto:general@jifh.org)  
フェイスブック <https://www.facebook.com/hungerzero>

■ 募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト

- 郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構
- 他の金融機関からの自動振替 ● クレジット、デジタルコンビニ



- 大阪 〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1  
TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
- 東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室  
TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
- 愛知 〒466-0064 名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター2F  
TEL (052)731-8111 FAX (052)731-8114
- 広島 〒730-0036 広島市中区袋町4-8 CLCボックス2F  
TEL (082)546-9036 FAX (082)546-9037
- 沖縄 〒901-0156 那覇市田原3-8-1 ユリ香ハウス201号  
TEL (098)859-4585 FAX (098)859-4540
- 東北 〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-13-6 エマオ2階 E  
TEL (022)217-4611 FAX (022)217-6651

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするために、ひばり障害者作業所(八尾市)、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が、送付作業のご協力をして下さっています。

7月4日から3日間、コンゴ民主共和国のルブンバシ市内の教会で、VOCセミナー（共同体のビジョン研修）が行われました。当機構の駐在スタッフ、ジェローム・カセバが現地で地元教会の人々と共に準備し実現したもので、毎日約50名の参加者が集まりました。



## 自分が変わること、それが私の第一歩

講師のランディエー師と通訳のジェローム JIFHから岩橋理事長も参加しました

講師は、昨年のニジェールでのセミナー同様、当機構の海外プロジェクトアドバイザーのランディ・ホーグ師（VOCF代表、元国際飢餓対策機構総裁）でした。地域教会の牧師を始め、長老、学校長、国内避難民のリーダーのパメラさんなどが参加されました。

セミナーでは、物の見方・考え方の変革の重要さと、そのためには自分から変わること、そして、地域が飢餓・貧困という困難に立ち向かうには、3つの核となる、地域のリーダー、地域教会、地域の家族が共同体として共にビジョンを持ち、協力していく必要があるということ学びました。この「私から始める、世界が変わる」の考え方に沿って、一人一人が地域を変えていけるよう、励ましをうけました。

### 変革の先駆者になりたい

「今までは教会の人たちのことしか考えていませんでした。しかし、コミュニティの人々のことも考えていく必要があることを学びました」。参加したマサング・ポリドール牧師の感想です。また教

会の女性リーダー、ナウェジ・クレマンティネさんは「一番心に残ったことは、まず自分が変わることでした。今後は、女性たちとビジョンを共有して、コミュニティを変える先駆者として働きかけていきたい」と語りました。

### 隣国ルワンダからも参加者

またこのセミナーには、当機構が支援をしているルワンダのREACHからも2名参加されました。コンゴとルワンダという国同士の複雑な関係上、参加が一時危ぶまれましたが、結果、参加者からは、「ルワンダでの活動のことを学べてとても励まされた」という感想をいただきました。

参加した国内避難民グループのリーダー、パメラさんたちの村では、昨年12月に民族紛争があり40人が殺されたということです。パメラさんたちは命からがら、450km離れたルブンバシまで3週間かけて歩いて逃げ、136人がルブンバシにたどり着きました。当機構は、教会を通して食料などの支援、また彼らが教会に来るための車の支援を行いました。現在は、多くの人が他の村に行き

35名がルブンバシに残って、パメラさんの親戚の家と一緒に暮らしています。一時は、そこに90人が住んでいたそうです。教会の人々は、彼らを迎え入れてさまざまな支援をしています。私たちが参加した礼拝の後に、衣服の寄贈をされていました。



セミナーに参加中のパメラさん、当機構はこれからも支援を続けます

パメラさんは、「今回のVOCセミナーで一番学んだことを、私たちの仲間にも伝えます。今後は、共に農業プロジェクトをして自立できるようにしていきたいです。」と語られました。困難の中でも、自立していこうとするパメラさんの表情は希望に溢れていました。



当機構は、これからも現地教会を通して、コンゴ民主共和国の人々の自立のために協力をしていきます。皆さまの応援をお願いします。

## ハンガーゼロ自販機で 今すぐ始められる、 国際協力と防災対策

当機構は、大手飲料メーカーのキリンビバレッジ、世界で初めて3年間保存ができるパンの缶詰を開発したパン・アキモとの協働で「災害対応型のハンガーゼロ自販機プロジェクト」をスタートしました。この自販機は、従来のものに備蓄機能を加えて、国内災害への対応を可能にしました。

その仕組みは、この自動販売機設置者に対して、ミネラル水ボトル96本とパンの缶詰96食分を収納する備蓄ボックスを無償で提供することで、地震などの災害発生時に緊急食料として活用できるようにしたものです。国際協力と国内緊急援助をこの1台の自販機で行うことができます。

備蓄品として提供されるミネラル水（330ml入）とパンの缶詰（100g入）は、常温で3年間保存できるものですが、2年が経過した時点でキリンが新しいものに入れかえます。引き取ったパンの缶詰は、当機構を通じて世界各地の飢餓に苦しむ人々に、ミネラル水



一時避難場所になるキリスト教会や集会所なども設置に適しています

は、原発災害に苦しむ福島の人々に送られる仕組みとなっています。これにより、使われなかった備蓄の

パンと水を無駄にすることなく使い切ることができます。

### 帰宅困難者対策として

2011年に東北と関東地方を襲った大震災の教訓から「水と食料」の備蓄を検討する企業や学校が増えています。東京都ではこの4月から帰宅困難者対策条例も制定され、企業に対して三日分の食料等の備蓄についての努力義務が課されました。また、東海・中部・関西・四国地方でも南海地震に備えて各種の防災対策に取り組み



東日本大震災では、パンの缶詰が緊急食料として大いに活用された

始める自治体や企業も増えつつあります。当機構は、この自販機プロジェクトが拡大することで、地域住民の防災対策の一助になればと願うものです。

もちろん「ドリンク1本の売上からアフリカの飢餓のために10円」を寄付するこれまでの機能もあります。ドリンクという身近な消費材を活用して、それが国際協力と地域の防災対策にもなる、ぜひ皆様のところでも設置を検討してください。設置にあたっては、キリン



備蓄ボックスには、パンの缶詰とミネラル水が96食分 収容。備蓄ボックスの設置スペースがない場合は、備蓄品のみの提供も可能です。

ビバレッジの担当者が詳しく説明します。収益事業ができない非営利団体などでも適切な方法で導入が可能です。マンション管理者が自主防災策として検討を進めてくださる事例もあります。資料請求は大阪事務所まで。お電話でもお気軽にご相談ください。

### みんなで募金協力！

社会福祉法人キングスガーデン三重では協力機関である日本国際飢餓対策機構(JIFH)が飢餓のない世界を目指す取り組みの1つとして行っている、ハンガー・ゼロ・アフリカプロジェクトに賛同し、その自販機プロジェクトに参加しています。大台共生園にはコココーラとアサヒカルピス社の募金型自販機を、共生園に



はアサヒカルピス社の募金型自販機を設置しています。ドリンクを1本買うごとに10円が募金されるシステムで、職員を始め利用者様やそのご家族、地域の方々も募金に協力して頂いております。

前年度募金総額136,600円を募金することができました。これからも飢餓のない社会実現の為に協力していきます。

社会福祉法人キングスガーデン三重  
 理事 岡田大輔



# ボリビア 世界里親会の日

ボリビアでは4月12日が子どもの日です。この時期に合わせて当機構は「世界里親会の日」と子どもの日を兼ねたお祝い会を実施しています。今回は支援地2カ所の様子をお伝えします。(駐在・小西小百合)



## 子どもも家族も先生も喜び合える日

今回2地区共通で行ったのは、地域の保健診療所の医師・看護師との協力で実施した「寄生虫予防」キャンペーンです。まず寄生虫予防・駆除の必要性を説明し、薬をその場で生徒たちに飲ませる方法をとりました。そうしないと生徒たちは飲まずに捨ててしまうからです。この薬代は里親会が全額を負担しました。

アサワニ地区(全校生徒約250名)では、加えて「手洗いの実践」を指導しました。手洗いの大切さを話し、実際に水のいった桶、石鹸、タオルを準備して生徒たちに練習してもらいました。

授業で手洗いの実践をしています



アサワニのセンター校



それと並行してFHスタッフが栄養に関する学び会を行いました。どんな食べ物にどんな栄養素が含まれていて、それらを摂取することがどんなに重要か。また調理の方法や、摂取しすぎると良くない物とその理由(どんな

病気になりやすいか)などを、子どもの年齢に合わせて、それぞれ映像や大きなポスター等を使ってわかり易く説明しました。

また全校生徒の保護者に対して校長先生が、子どもの人権(権利と義務)と大人が子どもを保護し世話をする責任があることを話し、里親会のスタッフが聖書の言葉「若者をその行く道にふさわしく教育せよ。そうすれば、年老いても、それから離れない。」を引用して、保護者である大人たちに子どもを正しく導き教育することの大切さとそうする義務があることを語りました。その後生徒による民族舞踊やゆかいな寸劇等が披露されました。

### 命を大切にすること

リオカイン地区(全校生徒約350名)では、スタッフによる学びの時間が「人の命は神聖で大切なもの」というテーマで持たれました。視聴覚教材を用いて「私たち一人ひとりの命は、



この日はお母さんたちも協力して調理をします

神様から与えられた尊くて大切なもの。だから自分も他の人も大切にしようね」というメッセージが語られました。

一番小さなケヤワニ分校(13名)では校内の清掃キャンペーンを行い、参加した子ども全員にFHのロゴとひとことメッセージ「私は神様に信頼をおいています」が入ったTシャツをプレゼントしました。

### みんなで喜び合える日

さて世界里親会の日には2地区の全ての子どもたちが心待ちにしているのは、なんといってもおいしいお菓子と特別メニューのお昼ごはんです。この日里親会からはミルクココアの材料、カップケーキ、特別メニューの食材の一部、フットサル(6人制ミニサッカー)大会のための賞品等を支援しました。地域の保護者たちがジャガイ



特別メニューのご馳走を頂いている子どもたちは嬉しそう

ゲームで二人三脚を楽しむ子どもたち(ケヤワニ小学校)



民族ダンスをするスクワニ小学校の子ども



モや調味料、薪・調理用ガスなどを携えてきて、愛情込めて調理しました。ある学校では土の窯で、別の学校ではお鍋で煮た味付け鶏に地域特産のジャガイモと野菜サラダ(レタス、玉ねぎ、トマト)が添えられました。子どもたちは、普段は食べられない特別メ



学用品をもらうワクラク

ニューを「すごくおいしい!」と、とても喜んで口いっぱいほおぼって食べていました。この味付け鶏のおいしいこと!日本の皆さんにもぜひ味わって頂きたいボリビアならではの味です!

そしてこの日子どもたちは、里親会

から学用品のプレゼントを受け取りました。ノート、鉛筆、ボールペン、色鉛筆セット、定規、消しゴム、鉛筆削りなどです。みんな自分の順番が来るのが待ち遠しく、受け取ったあと友達とワイワイ言いながら目を輝かせて袋の中身を全部出し、

一つ一つを手にとって見せ合っていました。満面の笑顔で喜びを表してくれる子どもたちを見て、「よーし、これからもこの子たちのために頑張るぞ!」と、私たちスタッフも励まされました。

この日2地区の数校で子どもたちの、また先生と生徒対抗のフットサル大会があり熱戦が繰り広げられました。地域の子ども、親、先生が一体となって学び、楽しんだ2日間でした。

**ボリビアでは50人の里子がサポーターを待っています!**



後列中央に小西小百合

ボリビアの子どもたちを応援して下さい。心から感謝します。これからも続けてご支援をよろしくお願い致します。(小西)

我が家には、9才と6才の息子がいます。彼らに里子の提案をしたところ、ケニアの出来れば歳の近い男の子を希望しました。彼らは、おこづかいや家の手伝いでもらったお金を貯めて、少しでも里子への支援の足しになればと思っています。みなさんの活動が、日本の恵まれた子どもたちに広く知られ、生命の大切さを知るきっかけになりますように。いじめで若い命を絶つ様な子どもがいなくなればいいのにと、願ってやみません。(神奈川・女性)

**支援者のワンボイス**  
チャルドサポーターさんから届いたお便りをご紹介します

飢餓対策ニュースで(私の)里子と同じミンダナオ島の里子たちの記事を読み、感動して我が子にも話して聞かせました。学校に行くことをあまり喜んでいない日本の子どもたちの状況(我が子を含む)を見る時、ニュースに書かれている子どもたちの置かれた環境は、あまりにも違い過ぎて想像を絶するものです。手紙にも何を書けばいいのかかわからず今まであまり書いていませんでしたが、今後はできる限り里子に手紙を出せたらと願っています。(大阪・女性)



コンサート情報のウェブページ <http://www.7a.biglobe.ne.jp/~sakurach/>

来る8月31日に千葉県・佐倉市民音楽ホールにおいて「第3回メサイアコンサート」（指揮：鶴崎庚一）が開催されます。この催しは、佐倉教会をはじめとしたキリスト教会員と一般市民で構成する「佐倉メサイアをうたう会」が2年毎に行っているものです。2009年の第1回からチャリティー形式として、これまでに世界の飢餓や東日本被災者支援のために55万円もの募金を寄せていただいています。同会発起人のお一人の黒田尚子さん（佐倉教会員）と会の皆様に伺いました。♪

## 「メサイア」演奏会を通して慈善の輪を広げたい

Qメサイアをうたう会はどのような経緯で誕生したのでしょうか

教会は一般の方々にはなかなか入りづらい所です。教会が地域の中でコミュニティの場としてより愛され用いられるためにどうしたらよいか、その問いの中で、「佐倉メサイアをうたう会」が誕生しました。佐倉市は、もともと合唱が盛んな地域です。教会の中の合唱経験者数名と相談し、当初は、教会員有志約20名に一般市民の方約20名が加わって2007年から活動を始めました。「メサイア」を、教会を練習会場として、また地域の方々と共に創ることは、大きな喜びです。

Q活動を通してどのように社会に貢献していきたいと願われますか

地域の中で親しまれ、愛される行事、文化的活動になれば、嬉しいです。ヘンデル自身が、慈善演奏会として生涯「メサイア」に関わった事も尊重し、チャリティーとしても、定着させていきたいと思えます。教会から発足したこの会が、その由来を保ちながら、一般社会に自然にとけこんで活動する事を大切にしたいと思います

忙しく乾燥しきった現代生活の中で、皆が忘れていく心のオアシスのような演奏会になればと思

ます。

Q市民参加型にして良かった点は

練習日の夕方、多くの一般市民が何の違和感もなく集まって来られます。会員の半数はその方々ではなく、神が愛されたみんなの場所です。ですから、みんなで一緒に、声を合わせて高らかに歌うことで、メサイアを歌う会の本当の目的が達成できるのです。

Q2年毎の開催にあたり苦労されている点や、今回の意気込みは

演奏会費用の大部分を会のメンバーの積立で担っているため、様々な部分でみなで苦労を分かち合っています。今では佐倉市音楽ホールとの共催が実現し、市民に知られるようになってきました。

二年の準備期間もあっという間です。本番ではメンバー全員が心一つにし、生きる喜びと生命の尊厳をかみしめながらホールいっぱい歌声を響かせたいです。

Q東日本被災者やJIFHへの思いをお聞かせください

2011年5月の演奏会は、地震直後でした。多くの方々が募金にご協力くださり感謝です。今回の地震の影響は、まだまだ終わらないと感じます。わたしたちの会にできることは、わずかなことで

が、このかわりを覚え、大切にしたいと思えます。誰もが、被災地支援がまだまだ必要と感じながら、具体的にどのように支援すべきかと戸惑う中で、JIFHは私たちの目の届かない所で幅広く活動されていると感じています。「私から始める、世界が変わる」というJIFHの姿勢は、国内でも生かされていると思えます。



第3回コンサートの案内。チケット料金の一部が当機構を通して東日本被災者支援に充てられます。

Q今後の計画は

メンバー一人一人が毎回新たな発見と喜びを見つけながら共に歩んでいけること、音楽によって社会に関わっていきける感謝を共有できる輪を広げていきたいです。当初から10回は続けることを考えていますので、それに向かっていきます。そのためにも、若い新しいメンバーが参加したくなるような魅力のある合唱団を目指していきたいと考えています。



東北コットンプロジェクト <http://www.tohokucotton.com/>



いまは農家から委託された野菜を販売



## 稲作再開にむけて少しずつ前進

仙台市若林区荒浜で農業再開のために動き始めた株式会社荒浜アグリパートナーズから、2013年2月、当機構に1棟のプレハブの建物の支援要請を頂きました。5ヵ月経過した皆さまの活動がどのように進んでいるのか、東北事務所の伊東が7月3日に訪問しました。

当日は朝から小雨の降る肌寒い日でした。今日の作業は、ボランティアの方たちとオーガニック栽培の綿花畑の雑草抜きです。

瓦礫のなくなった農地は、直ぐ



まわりの雑草を取り除かれた綿花

にでも農業を再開出来るのではないかと思われがちですが、塩害の問題、人手不足、農器具の流失などで、以前と同じ規模で再開するには時間がかかります。

そこで塩害にも強い作物である綿花の栽培を勧められたアグリパートナーズの皆さんは、2011年6月に初めての種まきを50名ほどのボランティアと共に行いました。11年の収穫は台風の影響なども重なり思ったほどにはなりませんでしたが、前年の経験を生かし2012年は収穫量を増やすことができました。そして2013年は綿花のオーガニック栽培をすると同時に、農作物の栽培を開始しています。しかしながら出荷して生計を立てるまでにはなっていません。現在は、委託農家から野菜を買い取って販売しています。

一方、2年かけて除塩した水田には、今年は震災後初めて稲が植えられています。この稲を秋に収穫して、生育に問題はないか、実った米に塩害が出ていないかを確かめてから本格的に稲作の再開ができるかどうかを判断する予定です。

大きな試練を乗り越えて、被災地の人々は前に進んでいます。震災発生時とは違う形での皆さん応援が必要です。どうぞ引き続きご支援をお願いいたします。

## にじいろ学習会

石巻市と仙台市の間にある東松島市の東名・野蒜地区は、多くの家屋が津波の被害を受けました。震災後直ぐに流出を免れた家屋の修繕を続けておられた東仙台キリスト教会の立石彰牧師が、2011年12月から、近隣の子どものために「にじいろ学習会」を始められました。

「にじいろ学習会」には、毎週火曜日と金曜日、小学1年生から6年生が25名から40名程集まります。私はここで子どもたちの勉強をみたり、一緒に遊んだりして子どもたちとの関係作りをしています。

午後3時頃にスクールバスに乗った子どもたちが、学習会を行っている「サクラハウス」に来ます。そして4時までは、野球やサッカー、バスケットボールをしたり、秘密基地で遊んだりして過ごします。4時からは宿題とプリント問題をやります。

みんな一生懸命勉強しています。勉強が終わると楽しみにしているおやつ時間です。子どもたちは一目散におやつを貰いに行きます。それから親御さんたちが迎えに来るまで遊びます。



子どもたち、スタッフ、親御さんたちそれぞれの関係が良好で、親御さんの中には、子どもを迎えに来た時に一緒にお茶を飲んで話してから帰る方もお

れます。地道な活動ですが、地域の人たちに信頼され、親しい関係になることができ、私も定期的に参加させていただき、その一端を担えることができ感謝しています。

(東北事務所 加藤新)